

JA 営農情報

№372 令和8年 9月号

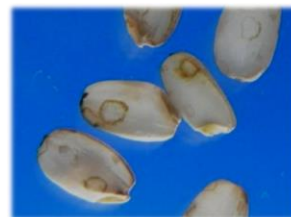
今年も夏の高温の影響もあってか水稻の登熟が早く、地域によっては8月末あたりから稲刈りをされるところもあるかと存じますが、機械の点検などの準備を万全にしておきましょう。



秋作業の注意点

■乾燥

刈り取った直後の籾は水分量が高く熱も持っているため、そのままの状態では放置すると発酵してしまい右写真のような薄いシミができます。そのため、刈取後は全量を速やかに乾燥機へ張り込み、2～3時間は通風乾燥をしましょう。



その後は、1時間あたり0.8%の乾燥を上限に温度を入れてしっかり乾燥させます。これ以上の急激な乾燥は、胴割米が増える原因となるため避けてください。

目標水分量の目安

うるち玄米	・・・	14.5～15.0%
もち玄米	・・・	13.0～13.5%

■籾摺り

乾燥終了後、籾の温度が下がったら籾摺り作業に入ります。米の検査において、『籾の混入』、『肌ずれ（右写真）』の要因として最も可能性が高いのが籾摺り機の調整ミスや不備によるものなので、作業前に必ず点検や調整の確認をしてください。



籾摺り機はメーカーや機種によって仕様や設定等が異なるため、細かい調整は説明書を確認するか、購入店もしくはメーカーへご相談ください。

近年は、稲刈りが例年より早い傾向にあり、また、9月以降も気温が高い日が多いため、秋作業中の熱中症のリスクが高まっています。決して無理はせず、熱中症対策をしっかりと講じて、時間に余裕をもって作業するよう心がけてください。

秋冬野菜の害虫対策

梅雨明け以降、雨量が少なく気温が高い日が続いていることもあり、夏野菜においてテントウムシダマシやアブラムシ、コナジラミ等の害虫の相談が多数寄せられました。これから秋冬野菜の育苗や定植がピークを迎えますが、この時期は特にハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイムシ）の発生に注意が必要です。



野菜の生長点を好んで食害するため、被害を受けると生育が遅れてしまい、ひどい場合は苗が全滅してしまうこともあるため、防虫ネットでの被覆や発生初期の農薬散布などで防除に努めてください。

また、定植前や定植時に土壌や株元に散布する粒剤タイプの殺虫剤であれば、生育初期の害虫に対して防除効果が高いため、必要に応じて散布することをおすすめします。

※農薬によって適用作物や病害虫は異なりますので、散布前に登録内容を必ず確認してください。

☆みしま館 出荷会員募集のご案内☆

当JAが運営する農産物直売所『みしま館』の出荷会員を募集しています。直売所への持込が困難な方については、営農経済センターへ持込いただくかご自宅へ集荷にお伺いすることも可能です。

少量でも構いませんので自分で育てた農産物を出荷してみませんか？

詳細についてはみしま館までお問い合わせください。 *TEL：645-7100

《各種相談日のお知らせ》

	法律相談 隔月第2木曜日	税務相談 隔月第4金曜日	ローン・資産・介護相談
9月	10日	——	下記店舗にて随時受付しておりますので、お気軽にお問い合わせください。
10月	——	23日	
11月	12日	——	
【実施場所】JA茨木市 本店3階 小会議室 【受付時間】午後1時～午後4時 ※定員は3名ですので、事前にご連絡ください。 総務課 広報ふれあい係 TEL：627-7768			●ローン・資産相談 JA茨木市 各支店 ●介護相談 介護支援センター（TEL：627-7767）



ご利用ください

【テレホンサービス】青果物の市況をお知らせします。 TEL：641-9150

【営農110番】栽培方法等ご相談ください。 TEL：641-9050